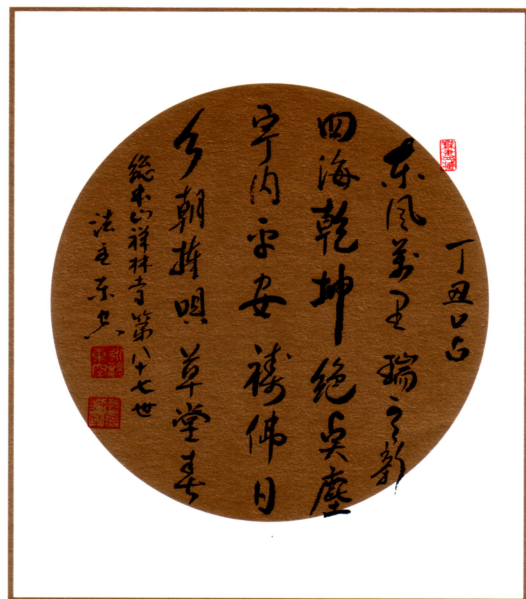


仏に常没の苦者を

撰する大悲あり

— 西山上人『略安心鈔』より



村のはずれに、古いお堂があつてな、婆さんが一人堂守りをしとったと。毎朝きれいなお水とお仏飯をお供えして、ご本尊の阿弥陀さまにお仕えしとった。

そのお仏飯をねらつてお堂の縁の下に鼠の一家が巣くつとった。毎日のようにお仏飯が減つたり、のうなつてしまふことから、婆さんは鼠が巣くつておることを知つとったが、「鼠もひもじかろうに」と、知らん顔をしてやつておつたんだと。

歯が伸びすぎんように、鼠は何かを齧る習性があるのだがな、選りに選つて、鼠たちは木造の阿弥陀様のお膝のあたりを好んで齧るんだと。カリカリ、カリカリ……。

阿弥陀様は、痛いとも思わず、そんな鼠たちのご無礼を、許しておやりになつとった。お膝のあたりが傷だらけの阿弥陀様は、今もその古いお堂に座り続けておられる。

丁丑口占

東風萬里瑞雲新
四海乾坤絶点塵
宇内平安禱佛日
今朝捧唄草堂春

知らなんだ。

知らなんだ。

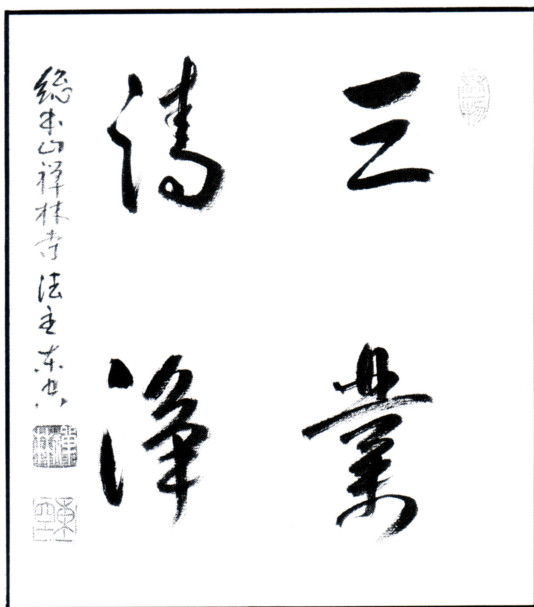
鼠は、わしらだったことを。

総本山 永観堂 禅林寺

仏の三業と衆生の

三業と相い離れず

西山上人『女院御書』より



お葬式のあと、一週間ほど、ご近所さんが毎日手をあわせに立ち寄ってくれた。

家族が一人減ったけれども、なんだかにぎやかで、子供心にうれしかった。こんな習慣を「さびしまいり」と言うのだと、おばあさんから聞いたことがあります。

ああ、日本語っていいなあ。

隣の人と口をきいたこともない、そんなご近所づきあいがあったりまえになってしまっている。

「ええ、おとなりとはフツウにつきあっています」

普通か、それとも不通だろうか。へんな工事して「心の堀」ばかり高くなる。そう、堀は自分で造ってしまう。自分で壊すこともできるのに。

家ばかりか、家族の中でさえ堀が高すぎてなかなか入れない。

だれか「さびしまいり」に来てくれんやらか。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜県羽島郡在住 高野 一様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

声に唱へ出だす処は
我が往生の色が
声に出づるなり

—— 西山上人 ——

孝
善
父
母

総本山 禅林寺法主 東、
西、
南、
北、

私は幸せ者です

いい両親

いい兄弟

いい旦那さま

いい子供たち

いい婿 嫁たち

いい孫たちに恵まれました

私は幸せ者です

この中の一人でも欠けていたら

幸せな私はありませんでした

みんなに会えて

素晴らしい人生を送りました

ありがとうございます

お世話になりました

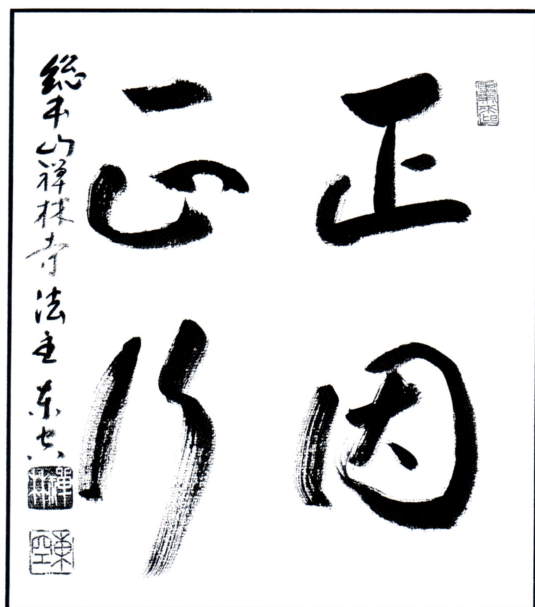
と言って、母はお浄土へ還りました。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄 猊下のご染筆です。前号の色紙は、広島県尾道市在住 大石 弘 様に贈呈いたしました。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

はげむも悦ばし
はげまざるも悦ばし

西山上人『鎮勸用心』



マラソンのメダリストの言葉「自分をほめたい」がもてはやされました。

努力してきた自分を認めたいということなのでしよう。

でも、努力できない人は、どうするのでしようか？

輝かしい結果を得られない人は、どうするのでしようか。

努力しようとしても、続かない私、結果のでない私は、自分を認められないことになつてしまします。

そんな凡夫を、そのまま認めてくださるのが阿弥陀さまです。

私たちをそのまま認めてくださっている喜びを、西山上人は鎮勸用心にお示しく下さいました。

はげむも悦ばし はげまざるも悦ばし。
何と奥深いことでしょうか。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄 猊下のご染筆です。前号の色紙は、愛知県一宮市在住 大塚鷹次様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

修しゅ
習じゅう
善ぜん
語ご

— 無量寿経 —

修 習
善 語

総本山 禅林寺法主 永観堂 禅林寺
西王

ひと言のやさしきで
人は救われる

習うということは、必ず修めるとい
うことです。善語よいことばを知っていても、使わな
いなら知らぬも同じです。

職場での人間関係がうまくいかず、対人
恐怖症に陥おちいっていた女性に、先輩がこう言
いました。

「他人と過去は変えられないね。でも、
自分と未来は変えられるよ」

このひと言で、彼女は笑顔と元氣を取り
もどすことができたといえます。

言葉には、生命いのちがあります。

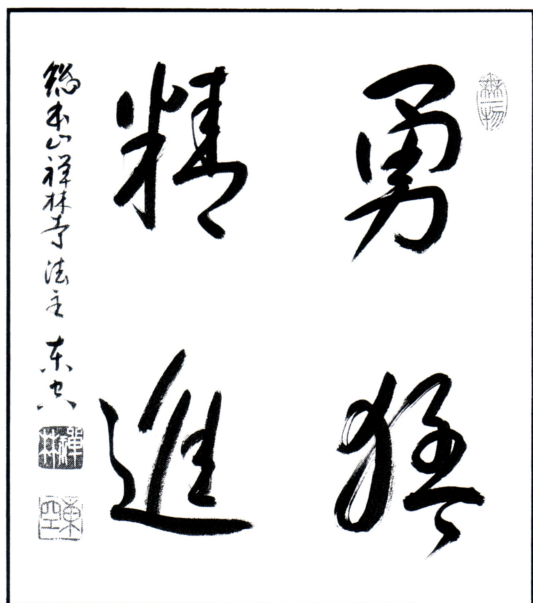
相手を思いやる暖いひと言が乾いた人の
心にうるおいを与えるのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫加西市在住 平田稔郎様に贈呈いたします。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

勇 猛 精 進

善導大師「初夜無常偈」



バングラデシュという国があります。インドの東の国です。そこから一人のお坊さんが、日本に留学しています。ギャナ・ラタナさんです。

あるお寺の子ども会に招かれて、こんな話をしました。

「皆さんは、何のために生きていますか。これから、どうしようと思っっていますか。夢は何ですか。それは、一人一人違っていい。

でも、していけないことがあります。殺す、盗む、みだらなことをする、嘘をつく、酒を飲む。」

その横で聞いていた私は、そんな堅いことを言っでは、子どもたちにウケないよと思いました。最近の子供は……ですよね。

でも、数カ月後に会った子どもは、その言葉の道を進もうとしていました。

「ぼく、あのギャナさんの言葉をまもっているんだ」と。一瞬、その言葉に驚いてしまったのですが、それに驚いた自分が、恥ずかしかったのです。

真剣に生きることに、老若男女の差はなかったのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市在住 伊藤待子様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月月末抽籤で一名に進呈。

和
顔
愛
語

『無量寿経』



あなたに
あなたに嬉しいことがあったなら
どうか
わたしに伝えてください
あなたに
あなたに悲しいことがあったなら
どうぞ
わたしにお話してください
だから
だから、わたしが辛いときは
笑顔で
優しい言葉を
かけてくださいね
きつと、
きつと.....

総本山 永観堂 禅林寺

その楽の聲は

法音にあらざることなし

—— 大無量寿経 ——



鐘聲超

法界

総本山 禅林寺法主 永観堂



夕刻、お寺の鐘が「ゴォーン」と鳴ると、しばし畑仕事を置いて、寺の方を向いて合掌する人がいる。

今日一日はたらくことができたといふ様に手を合わせるのだそう。この人には鐘の音が「御恩」と聞こえる。

他人様からだけではなく、つちや、おてんとう様から頂いた恵みの中で過ごせた喜びを、「ありがたい」と手を合わせる。

一日を振り返る。

感謝する。

—— 大切にしたいひとときである。

総本山 永観堂 禅林寺

欲得無生果

— 晨朝礼讃偈 —


 欲得無生果

總本山 禅林寺法主 永観堂



昔、インドにたいそう強い力士がいて、その強さを示そうと額に宝石を飾っていた。ある試合の時あまりにつよくぶつかったので、その宝石が額にめり込んでしまった。試合を終えた力士は、宝石がないことに気づき、痛いのも忘れて落ちていないか探したが、見つかるはずもない。

やがて額の傷がひどくうずくので医者に診てもらった。ひと目その傷を見た医者は「立派な宝石ですね」と誉めた。宝石を見たはずのない医者がそのことを口にするので、力士はもしや医者が拾ったのではないかと疑った。すると医者は「額にめり込んでいるのですよ」と告げた。それでも力士は信じない。

「あんなきれいな宝石からこんなきたない膿や血が出るわけはない。」

欲や怒りほど人の眼をふさぐものはない。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、福井県大野市在住 斎藤敏子様に贈呈いたしました。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

仏恩を報ぜんがために

ゆえに至心に仏を礼す

—— 善導大師『往生礼讃』 ——

佛 恩
在 謝

総本山 禅林寺 法主 永観堂



樹はその枝ほどに根を張る。そして沢山の水や養分を大地から吸い上げる。そのお陰で枝は大きくなれる。これをご縁という。

枝葉は繁れば繁るほど沢山の雨風を受ける。時には台風や落雷に遭うこともある。これもご縁である。しかしそれを乗り越えてより強くなる。

人間も褒められたり叱られたり、楽しかったり辛かったり、いろんなご縁で大きくなる。このことを感じたらそれは「ご恩」である。齢を重ねるにつれてこのご縁も深く広くなる。

—— 生きるとは、この「ご恩」に目覚めること。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県姫路市在住 伊藤吉之助様に贈呈いたします。ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

常随影護

専ら弥陀の名を念ずる者は、

観音、勢至が常に随（しな）つて影護（ようご）したもう

— 善導大師・散善義 —

常随
影護



総本山 禅林寺法主 永観堂



急性心筋梗塞で倒れて、病院に担ぎこまれた男性の話です。

まだ意識が朦朧（もうろう）としていた時、いきなり若い看護婦さんから質問されました。

「あなたに、お嬢さんがいますか」

変なことを聞くなあ、と思ったが、かすかに頷（うなづ）いたら、その後の言葉がやさしかったのです。

「では、これからは娘さんに甘えるつもりで、何でも私におっしゃってください」この言葉が私をホッとさせ、勇気づけ、元気になるきっかけをつくってくれた、とその男性は言っています。

常に影のように護られていることは、この上ない安らぎと生きる勇気を与えてくれます。

総本山 永観堂 禅林寺

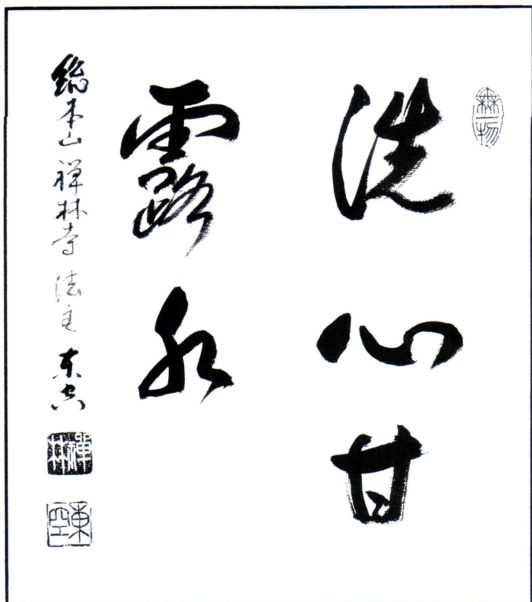
右の色紙は管長 森 準玄 親下のご染筆です。前号の色紙は、大分県臼杵市在住 児玉 明様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月未抽籤で一名に進呈。

せんしんかんろすい
洗心甘露水

えつもくみょうけうん
悦目妙華雲

極楽には心をすがすがしくする甘露の水が
あり、目を楽しませてくれる華の雲が漂う。

善導大師 — 往生礼讃 —



中国では
仁政の祥瑞に

天より

甘露の雨が降るといふ

インドには

不老不死なる

甘き靈薬

ソーマの酒があるといふ

浄土には

煩惱の

汚れし心を洗う

甘露の水があるものとぞ

時に、我

罪多きゆえ

こころ

汚れしままなるがゆえ

ただ

弥陀を念ずるのみ

総本山 永観堂 禅林寺